

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 銀行・生保「自己資本」の実相 (経済研究センター深尾報告を読んで)

今月18日、日本経済研究センターの深尾光洋氏が「金融研究報告」と称する小論を日経新聞に寄稿し、銀行部門はほぼ自己資本全てを喪失、生命保険も実質的に自己資本を失っていると断じた。深尾氏ら同センターの分析によると、大手銀行の大半は既に実質債務超過の状態に陥り、ソルベンシーマージン比率が0%未満になっている生保が2社あるという驚くべき結果となっている。多少のことに驚かない者でも「えーっ!」と云いたくなるような内容である。

先ず、深尾氏らが示した銀行・生保の実質自己資本の試算を転記してみる。(紙面の都合で一部略)

(表1) 【全国銀行の実質自己資本】

(単位:兆円)

	資本の部 合計 A	推定引当 不足額 B	繰延税金 資産 C	その他 D	実質自己資本 A - B - C + D	公的資金 E	公的資金を除く 実質自己資本
1998/3	24.3	4.9	0.0	2.1	21.6	0.3	21.3
1999/3	33.7	4.0	8.9	0.4	21.1	6.3	14.8
2000/3	35.6	5.8	8.2	4.1	25.7	6.9	18.9
2001/3	37.6	7.5	7.3	3.5	19.3	7.1	12.2
2002/3	30.2	6.8	10.7	2.0	10.8	7.2	3.6
2002/9	24.9	6.8	10.7	2.0	5.4	7.2	1.8

(表2) 【主要生保10社の修正ソルベンシーマージン比率】

	0%未満	0-70%	70-100%	100-150%	150-200%	200-250%	250-400%	400%以上
2000/3	0	0	0	0	0	3	6	1
2001/3	0	0	0	1	2	1	5	1
2002/3	0	0	1	2	0	2	5	0
2002/9	2	1	0	0	1	1	3	0

(共に2002/9は予測値)

悪い夢を見ているようだが、これが我が国の金融機関の実相かもしれない。しかし、大本営発表の数値とその周辺から漏れてくる数値とがかなり乖離するのは特段珍しいことではないとしても、全国銀行レベルで実質自己資本がマイナスに陥っていると、大手生保4社でソルベンシーマージンが200%を切っているというような論文が、不良債権処理に絡んで「銀行をどうする」の喧喧諤諤の議論が進行中の最中に大新聞に堂々と掲載されたことに何がしかの意図を感じないわけには行かなかった。そして、その意図がどこにあるにせよ、銀行はいま正に崖っ淵に立たされていると思わざるを得なかった。

22日の記者会見で全銀協の会長(UFJ銀行頭取)は、竹中チームの不良再建査定に厳格化や税効果会計の見直し議論に対し不快感を表明し、「銀行はルールの中で経営されており、サッカーをしていたのが、突然、アメフトになった感じだ」と述べたという。しかし、この10年、銀行決算を繕うため幾度も会計ルールが突然変えられたことを忘れてしまったわけではあるまい。それを脇に置いたままこういう発言をする者が全国銀行のトップにあることを私達はしっかりと認識しておく必要がある。

銀行や生保はおそらく深尾論文の通りだろう。今後竹中路線に従って貸出査定に厳格化が押し進められると、銀行の自己資本の実相が徐々に露になってくる。そして、追詰められた銀行は資産を圧縮するために必ず貸出回収という自己防衛に走る。

「たとえ設備資金でも、銀行借入に頼ること自体が経営リスクと感じるようになった」この大手上場企業の幹部の言葉は、銀行の動きを敏感に察知した本音であろう。「銀行に頼ってはいけない」、個別企業の行動はそれで誤りではない。しかし合成の誤謬という言葉があるように、個別の正しさが全体の誤りを誘発することはままある。これを是正する手段は少ないし、あったとしてもリスクが高い。だから会議は踊り、議論は迷走する。そして全体に良い政策など打たれるはずもない。

Weekly Fax Report

2002.10.26 (第332号)

《複製・転載等のご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: [http://www.hi-ho.ne.jp/smc\\_toyo/](http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/) Email: [smc\\_toyo@hi-ho.ne.jp](mailto:smc_toyo@hi-ho.ne.jp)